



感染症週報



chatGPT作

小笠原での流行状況

第25週（6月16日から6月22日まで）

父島 水痘、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告がありました。

母島 COVID-19の報告がありました。

東京都全体での流行状況

第24週（6月9日～6月15日）

【警報・注意報】

- 水痘 **注意報レベル**です
(定点患者報告数 1.09)

村内でも
出ています！



【ピックアップ】

- ★高い水準を維持しています
 - 百日咳
(累計報告数 2,052例)
 - A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
※ 村内でも3週連続で出ています！
(定点患者報告数 4.02)
- ★増加してきています
 - 流行性角結膜炎
(定点患者報告数 0.56)
- ★例年より高い水準で推移しています
 - 咽頭結膜熱
(定点患者報告数 0.54)
 - 伝染性紅斑
(定点患者報告数 0.73)

感染症メモ

出典、参考：東京都感染症情報センター
国立感染症研究所 日本感染症学会誌
亀田総合病院感染症内科

A群溶血性レンサ球菌の学名は *Streptococcus pyogenes* といい「膿を産生する連なった菌」という意味を持ちます。顕微鏡で見ると菌が鎖のように連なって見えることから、以前は「連鎖球菌」と表記されてきました。この菌は多くの毒素を産生します。たとえば、赤血球を壊すストレプトリジンO (SLO)、発熱や発疹を引き起こし猩紅熱の原因となる発赤毒素エリスロゲン、血液の凝固を防いで感染を広げるストレプトキナーゼ、DNAを分解して細胞を壊すDnase (ディーエヌアーゼ) などです。さらに、免疫反応を抑える物質も出します。この菌による疾患で最も危険とされるのが、「人食いバクテリア」とも呼ばれる劇症型溶血性レンサ球菌感染症です。全年齢で発症しますが、特に30歳以上に多くみられ、報告数は50～80代にかけて増え、70代が最も多くなっています。基礎疾患がなくても突然発症することがあります。

A群溶血性レンサ球菌

A群溶血性レンサ球菌は、化膿レンサ球菌や溶連菌とも呼ばれる細菌で、産生するさまざまな毒素によって多くの疾患を引き起こします。今回は、この菌によって引き起こされる代表的な疾患についてご紹介します。

～A群溶連菌感染で発症する病気～

- ◆ 咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)
のどの痛み、発熱、扁桃炎などを伴います。
- ◆ 伝染性膿痂疹 のうかしん (とびひ)
皮膚浅部の感染症で、水疱や膿疱が特徴です。感染性が強く、接触によって簡単に広がります
- ◆ 蜂窩織炎
皮膚の深い層の感染症で、赤く腫れて痛みを伴います。
- ◆ 丹毒
皮膚表面の感染症で、境界明瞭な紅斑が特徴です。
- ◆ 壊死性筋膜炎
扁桃周囲や、腕、足、股関節などの深部に膿瘍を形成し、劇症型溶血性レンサ球菌感染症へ移行することがあります。
- ◆ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)
急速に進行し、多臓器不全を引き起こす、重篤な疾患です。死亡率は約30%とされています。

予防には
手洗い・咳エチケット
傷は清潔に保つ
共有物の衛生管理
が有効です

- ◆ 猩紅熱 しょうこうねつ
発熱、咽頭炎、全身の発疹を伴う疾患です。

特徴的な症状に
「イチゴ舌」
があります

～A群溶連菌感染後に発症することがある病気～

- ◆ リウマチ熱
心臓や関節に炎症を引き起こす可能性があります。
- ◆ 急性糸球体腎炎
腎臓の急性炎症を引き起こす可能性があります。

習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所